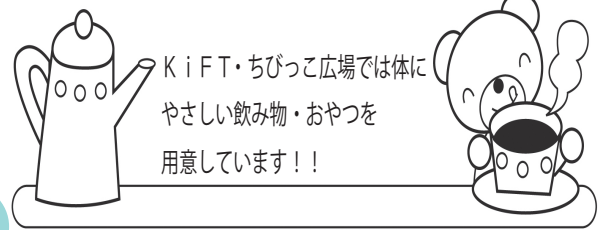


応援します。なかよし親子

Come Come



2024年 1月号

2024 あけまして おめでとうございます 本年もよろしくお願ひいたします

新しい一年がスタートしました。今年も元気で明るく、そして楽しく過ごせる事をスタッフ一同お祈り申し上げます。

子どものケンカは「大きな成長のチャンス」！

子どものケンカは厄介なものではなく、むしろ学びの大きな成長のチャンスといわれています。

おもちゃを取り合ったりケンカをしたり仲直りしたりすることで、相手にも気持ちがあることを知り、自分の気持ちとの折り合いの付け方や、一緒に共同作業をする楽しさを学びます。また、親同士の人間関係を優先し、「ごめんね」「いいよ」の言葉だけを子どもに強要し

「めでたしめでたし」としないことが大事です。頭ごなしに否定して謝罪や譲歩を強いると、その場では言う通りにしても子どもは納得できず、同じ事を繰り返します。

解決法を子ども自身に考えさせてみよう！

子ども同士のケンカを親が目にすることは日常茶飯事。そしてケンカするとき、大人はつい、泣いている子を慰め、泣いていない子を責めがちではないでしょうか。

専門家によると、その行動はNGなのだとか。同じ境遇でも「すぐに泣いてしまう子」「我慢強い子」「その場で泣けない子」がいます。また、親が自分の子を責めると、親子の信頼関係を損ねる恐れがあります。とっさに叱る前に、まずは子どもの話を聞いて、気持ちに寄り添ってみてください(*^_^*)

そのときに気をつけることは、ケンカ自体を怒るのではなく、ケンカの原因や内容に焦点を当て、解決策を子ども自身に考えさせてみることです。ケンカを通して自分中心の考えから一歩進んで、ルールやマナー、コミュニケーションの取り方を学ぶ良いきっかけになるからです。

「共感→理由→選択」の順序で言葉かけしてみよう！

例えば、お友だちが使っているおもちゃを奪ったように見えたとき、「それで遊びたいんだね」と共感し、「でもいきなり取るとビックリするから」と理由を伝え、「口で『かして』ってお願いしてみようか？それとも終わるまで待ってようか？」と、どう行動すればいいのか選択肢をつくり、子ども自身に考えさせてみましょう。

ケンカにもルールと教育が必要です。そのルールとは、「目を突かない」「噛まない」「股間やお腹を狙わない」「爪を立てない」といった大きな怪我につながるだけでなく、「容姿など克服できないコンプレックスをあげつらう」といった相手の心に深い傷を負わせてしまう言動を控えることも含みます。何度も言い聞かせるだけでなく、やられた相手がどう思うか、自分自身に置き換えて考えさせることを心がけましょう。

こどもまなび☆ラボ参照



ゆうゆうK i F T (児童クラブ解放日)のお知らせ

1月の解放日…26日(金) 10:00~11:30 太極拳教室

2月の解放日…2日(金) 10:00~11:30 切り絵教室

